

## 海外派遣研修プログラム 実習報告書

【派遣先】 タイ マヒドン大学シリラート病院

【実習期間】 2014/4/7 – 2014/05/01

神戸大学医学部医学科 6年 茂木千聡

タイ・バンコク市内にある **Siriraj** 病院は、タイ国内で最も古く歴史のある病院で、同時に最大病床数(2000 床以上)を誇る病院です。観光地として有名なワット・ポーや王宮からチャオプラヤー川を挟んで対岸に位置し、病院へのアクセスはボートが主という非常にタイらしい立地にあります。この実習中にとにかく驚いたことのひとつが、その規模で、**Siriraj** 病院周辺が一つの町ようになっており、内科・外科の病棟、校舎、学生や職員の寮をはじめ、図書館、スーパーマーケット、コンビニ、食堂、レストラン、さらにはスポーツジム、プール、銀行など、ほとんどの用事を敷地内で済ませることができます。門を出てすぐ目の前の通りには **Wang Lang Market** が広がっており、滞在中は買い物やタイマッサージなども満喫していました。

私は、前半2週間を **Infectious Diseases and Tropical Medicine**(感染症・熱帯感染症内科)、後半2週間を **Plastic Surgery** (形成外科) で実習させて頂きました。

感染症内科では、病棟回診を主として、抗菌薬の勉強会に参加させて頂きました。特に面白かったのが、週2回の微生物実習で、現病歴を聞いて、培養を目で見て、菌体を顕微鏡で観察して、抗菌薬の処方を考えるという内容でした。感染症内科のレジデントの先生方はもちろん、タイの学生も非常にレベルが高く、教わることの多い刺激的な内容の実習でした。また、この2週間で実感したことが、タイの医師、医学生の英語力の高さで、全く歯が立たなかったのが正直なところです。これは親しくなったタイの学生に聞いたことなのですが、タイ語の医学単語というものは存在せず(一部存在しても、非常に難しいとのこと)、学生は始めから医学教育の大半を英語で受けるのだそうです。テストやレポートも半分は英語で提出するとのこと、そのおかげで病棟回診のプレゼンテーションなどもみな即興の英語で行うことができます。

形成外科での2週間は、オペ見学と外来見学を交互に行うというようなプログラムでした。特徴としては、日本と違い、再建などの形成と、美容整形の垣根が全くなく、さまざまな理由で来院されているところでしょうか。日本では、学生中に美容整形の手術や外来を見る機会はほとんど得られないので、とても良い経験になりました。また、お世話になった教授が素晴らしい方で、形成外科医としての考え方、タイの医療についてなどたくさん教わることができました。

実習内容だけでなく、タイの医学教育や医療制度に触れることができたのも、今回の派遣プログラムで得られた貴重な経験のひとつです。英語教育に関することは前述させて頂きましたが、もうひとつ日本と根本的に異なっている点は、富裕層とそれ以外の層で病棟が別に設定されているところです。文化の違いや貧富の差、保険制度の違いなど色々な要因があ

りますが、やはり国が違くと医療の考え方がこうも違うのかと考えさせられることも多かったです。

実習内容とは少し外れてしまいますが、一ヶ月タイで暮らして、日々触れることのできたタイ文化はとても魅力的なものばかりでした。タイ料理は安くて美味しくて、本当にやみつきになりました。乾季の真っ只中に行ったこともあり、一ヶ月間とても良いお天気が続いたこと、またタイ学生が講義を受ける時間は自由時間だった為、ほとんどの日は午後の時間を自由に使い、船を使ってバンコク市内を観光したり、Marketを探索したりととても楽しい時間を過ごしました。また、4月にはタイの正月にあたるソンクラーンフェスティバルがあり、タイの学生に市街へ連れ出してもらって水かけ祭りに参加したり、ワット・ポーや王宮などが飾り立てられ、特別なお祈りをしているところを見学しに行ったり、週末にはアユタヤ遺跡を訪ねることもできました。



非常に充実した1ヶ月でしたが、勉強面ではやはり語学力の未熟さで悔しい思いをすることは多かったです。今後、Siriraj病院での実習を考えている学生さんは、ぜひ医学英語を、特に単語を勉強していくことをお勧めします。

最後に、久野先生を始めとする派遣プログラムを支えてくださったすべての方に感謝して、実習報告とさせていただきます。

